

日本中国語学会第2回関東支部拡大例会

2008年3月22日(土)

中央大学 後樂園キャンパス 5号館

東京メロ「後樂園」、都営地下鉄「春日」から徒歩5分、JR「水道橋」から徒歩15分

http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_korakuen_j.html

早春の候、会員の皆さまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、このたび第2回関東支部拡大例会を下記のとおり開催することになりました。9名の会員の研究発表に加え、2つのワークショップも予定されております。年度末のお忙しい時期ではございますが、皆さまどうぞふるってご参加ください。

	5233教室	5234教室
09:30-09:40	開会の辞 中央大学 佐藤富士雄	
09:40-10:20	① 全 香蘭 (筑波大学・院)	ワークショップA 『中国語の言語情報処理とその利用』 司会：砂岡 和子(早稲田大学) ① 張 玉潔(情報通信研究機構) ② 倪 晋富(国際電気通信基礎 技術研究所) ③ 申 亜敏(大東文化大学・非) 望月 圭子(東京外国語大学)
10:20-11:00	② 渡辺 昭太 (東京大学・院)	
11:00-11:40	③ 張 惠芳 (筑波大学・院)	
	司会：守屋 宏則 (明治大学)	
11:40-13:00	昼 食 休 憩	
13:00-13:40	④ 石村 広 (成城大学)	⑦ 原瀬 隆司 (大東文化大学)
13:40-14:20	⑤ 野村 和之 (東京大学・院)	⑧ 劉 海燕 (神奈川大学)
14:20-15:00	⑥ 温 琳 (神奈川大学・院)	⑨ 盧 建 (首都大学東京)
	司会：町田 茂 (山梨大学)	司会：望月 圭子(東京外国語大学)
15:00-15:10	休 憩	
15:10-17:10	ワークショップB 『方言からみなおす文法変化のメカニズム』 司会：C. ラマール (東京大学) ① 竹越美奈子 (愛知東邦大学) ② 遠藤 雅裕 (中央大学) ③ C. ラマール (東京大学) コメンテーター：楊 凱榮 (東京大学)	

Huang(2006)は、普遍文法の解明をめざす極小主義(minimalist)理論の vp-shell(Larson(1988), Chomsky(1995)他)を援用した中国語結果構文の分析である。極小主義では、論理形式(LF)において重要な働きをするのは語(word)ではなく、語が持っている素性(feature)であると考えられており、語は素性に分解されるべきであるとする。しかし、この普遍仮説は印欧語、とりわけ英語の文法をモデルとして開発されたものである。このような理論的前提を類型論的特徴が著しく異なる中国語にも直ちに当てはめることができるとは思えない。そこで展開される主張は、理論上の仮説の域を出ないのである。

形態変化に乏しい中国語のような孤立語(isolating language)タイプの言語では、使役のような文法的意味を語順によって表出するという傾向が濃厚に認められる。この使役義獲得の方策は、文法的意味を語や形態素に還元しようと試みる理論言語学の有効なアプローチに対しても重要な意義をもつものとする。個別語研究の本来的な意義が一般言語学の領域に新たな証拠を提示することにあるとすれば、中国語は人間言語の多様性を示す上で格好の材料となるはずである。

⑤ “我想得很开”——疑似形容詞としての方向補語“开”

野村 和之(東京大学・院)

“想”や“看”のような動詞と方向補語“开”が動補構造“V(得)开”を成す場合、“V得很开”“V得太开了”“V得开点儿”のように“开”の前後に修飾成分を付加するケースがよく見られる。一見、方向補語“开”が疑似形容詞(quasi-adjective)として機能している一方、形式上類似した“理(得)清”が“理不太清”という構造を取れるのに対して“*想不太开”は不適格であるなど、形容詞と見なしにくい統語的特徴も有する。しかし、疑似形容詞としての“开”の用法は興味深いものであるにもかかわらず、先行研究は乏しく、方向補語を網羅的に扱った刘月华(1998)すら触れてはいない。本発表では、まずこの疑似形容詞的な方向補語“开”の用法を、使用域を含め詳細に記述し、次に“V得很开”が動補構造“V(得)开”の再分析(reanalysis)によって生じた可能性を指摘する。

⑥ 現代中国語における「V得構文」の意味と論理構造

温 琳(神奈川大学・院)

中国語の「V得構文」はその構造と意味が複雑であるため、古くから関心が寄せられている。「V得構文」の表す意味について、「使役」を表すと指摘している先行研究もあれば、「使役」の一步前である「因果関係」を表すと記述している先行研究もある。また、「V得構文」が「使役」を表すと明言している先行研究のなかでも、大多数の「V得構文」は「使役」を表すが、「使役」ではない意味を表す「V得構文」も少ないながら存在するとしているものもある。

この論文では形式意味論の立場から、現代中国語における「V得構文」に論理式を与えることによって、その論理構造を明らかにし、それに意味解釈を与えることにする。それによって、現代中国語の「V得構文」が「使役」を表すことを立証する。ここでは事例を分析することによって仮説を立証する方法を取るが、具体的には、まず「V得構文」に対して仮説を提起し、次にその仮説を用いて収集した例文を分析、説明することによって仮説の正しさを証明するという方法である。

⑦ 蘇州語の文音調について

原瀬 隆司(大東文化大学)

音声分析機器を利用して得られたデータを使い、蘇州語の文音調についての研究成果を発表したい。音声言語としての蘇州語には、単語及び連語レベルでは連読変調が生じる。また、文のレベルでは統語構造により更に異なる連読変調が生じる。

今回の発表では、文の中でどの範囲まで音調群が支配してトーンを構成するのか、を音声的側面と文法的側面の二つの要素から分析した結果を検討してみたい。また、こうしたトーン曲線が本来の声調言語の

中で、何の要因によって実現されているか、を検討する。

⑧ 量词重叠能力的不平衡性探析

刘 海燕（神奈川大学）

现代汉语具有丰富的量词，其语法功能之一是可以重叠。对量词重叠的情况，曾经已经有人作过一些局部研究，这些研究为我们正确认识量词重叠现象提供了很好的借鉴。绝大多数人都说量词能够重叠，重叠后具有多种语法功能，表示多种语法意义。但是，现代汉语中所有的量词都能重叠吗？量词重叠的规律和理据是什么？量词不能重叠的原因和理由又是什么？这些问题我们觉得有值得深入探讨的必要。本文以《现代汉语八百词》和《汉语口语语法》中列举的所有量词为基础，以北京大学汉语语言学研究中心（CCL）网上语料库中的现代汉语语料为考察对象，考察和分析了所有量词的重叠情况，发现不是所有现代汉语量词都能重叠，量词的重叠能力具有极大的不平衡性。从认知语法的角度看，量词重叠能力的强弱不仅与量词本身的语义特征有关，还与一定的语用心理、语法机制有关。

⑨ 从北京话语料看普通话给予义双及物结构式的构式源流

卢 建（首都大学東京）

根据以往的研究，现代汉语普通话中并存着 4 种给予义双及物句法结构式，主要表现为：

A) 双宾语句法结构式：

间宾粘动式：动+间+直（张三送李四一本书）

B) 与格接受者句法结构式：

a. 与格接受者后置式：动+直+给+间（张三送一本书给李四）

b. 与格接受者中置式：动+给+间+直（张三送给李四一本书）

c. 与格接受者前置式：给+间+动+直（张三给李四发了一本书）

若着眼于与格的句法位置不难发现，普通话具有与格分布的最大值，占有了前置、中置和后置所有句法位置，呈现出以“动+给+间+直”为强势结构，以“动+直+给+间”、和“给+间+动+直”为相对有标记结构的分布态势，具有区别于其它方言的“中庸”性。

由于“普通话”是一个十分宽泛的概念，所以，本文拟从北京话的独特视野，以清代以及民国初年、现当代的北京话为视点，通过对清中叶以来尤其是十九世纪末二十世纪初世纪之交的北京话双及物结构式的使用状况的考察以及与当代北京口语的比较，寻觅两个多世纪以来北京话双及物句法结构式的演变轨迹，并以此来观照和厘清普通话双及物结构式的构式特征和本末源流。文章认为，这一分布格局是三种与格构式历史上交替发展的历时遗迹的共时再现，进而对“与格前移说”提出了质疑。

ワークショップ A 『中国語の言語情報処理とその利用』

司会：砂岡 和子（早稲田大学）

近年、マーケットの要請と計算機処理能力の高度化を支えに、言語処理技術とそれが依拠する大規模言語資源の構築が進展している。言語処理研究は、人間が実際に使っている言語を分析の対象とする点で、われわれ中国語研究や教育に携わるものにとっても関心が高い。統計や確率的手法を駆使した情報処理過程は理解が難しいが、それが提示する言語データによって日頃の経験知を検証し、法則性の記述へ向け理念を共有することが重要と考える。

本ワークショップでは、3名の専門家にそれぞれ中国語の言語処理およびコーパスを利用した言語研究の具体例について基調講演を依頼した。言語処理研究が提示する中国語の諸相に関し、その研究方法や応用について、会場との活発な知見の交換を期待したい。

① 中文信息处理中核心技术的开发及语言资源的建设

张 玉洁（情报通信研究机构(NICT)）

信息处理是让计算机帮助人对语言行为的生成物进行处理并管理的一门工程，涉及到多门学科。从目前的研究结果来看，我们只有全面地了解了语言行为的方方面面并联合相关的所有学科的研究人员，才能使计算机达到一定的语言理解水平，也才能使其完成我们所期待的任务。信息处理的应用既有古老的话题—机器翻译，也有新兴的需求—网页信息提取。信息处理包括的核心技术有语句的结构分析、语义的分析和语句的生成。中文信息处理的研究从1990年以来得到了快速的发展。与英文或日文相比中文缺少丰富的表层信息，比如单词的切分，字符类型的变换，词形变换，格助词等等。所以中文信息处理的核心技术的开发更具难度，其水平距离英文与日文所达到的实用水平来讲还有很大的距离。

中文信息处理的研究与开发离不开语料库。语料库是语言行为的生成物的标本集。既然是“集”，那么收集得越多越好，而且应该是不同形态，花样越多越好。既然有“标”，不能只是“集”而不“标”。标什么、标签集的确定以及如何标都是语料库建设中的基本课题。电子词典可以说是最早的语料库。标注好的语料库可以用来训练语句分析器。比如，标注了单词切分标志的语料库可以用来训练单词切分工具。此时，我们可以借助机器学习方法的现有技术或学习工具，从语料库中抽取出语言知识的规则以及应用规则的最有效顺序，或者得到相应模型的参数。机器学习方法的应用结果完全依赖于所使用的标注语料库的质量，特别是样本的分布以及标注的深浅程度。

现有的中文语料库有美国宾州大学开发的标注了句法结构的树库，中国的北京大学开发的标注了单词切分与词性的人民日报语料库，以及清华大学开发的标注了句法结构的平衡语料库。这些都是单语语料库。我所在的日本情报通信研究机构开发了日中平行双语语料库。我将介绍如何建设语料库以及如何应用语料库开发相关技术。我也会提及我们所遇到的问题，对问题的思考以及对解决这些问题所作的尝试。最后我也试图探讨日中双语语料库在汉语外语教学及翻译课程教学上的辅助作用。

② XIMERA 中的汉语语音合成技术

倪 晋富，坂井 信辅，中村 哲（NICT/ATR-SLC）

XIMERA 是 ATR 近年开发的一个高自然度多语言语音合成系统。语音合成是研究从文本到语音转换的技术。语言信息处理技术在语音合成系统开发中扮演重要作用。本报告介绍 XIMERA 中的汉语语言信息处理方面的工作。

文语转换系统的基本功能模块可概括为文本分析、韵律建模和语音合成三个部分。XIMERA 中的汉语文本分析模块细分为文本规范化，分词(同时完成词性标记)，和汉字到拼音转换三个子模块。输入文本可以包含有如%、\$等各种符号以及阿拉伯数字(如 2/3, 2008 年等)。文本规范化是根据输入文本的上下文信息和一些规则，将不规范的文本规范化为符合朗读习惯的文本。XIMERA 汉语分词工具采用日语分词软件 Mecab (<http://mecab.sourceforge.net>)。为此，我们建立了一个有 19 万词的汉语词典(包括词性，拼音等信息)和有 3204 条统计规则的语言模型。在分词工作基础上，字音转换通过查词典来完成。概括地说，文本分析的结果包括声母、韵母、声调、词边界、词性、停顿位置等语言信息。在当前系统中，停顿是按标点符号来预测的。韵律建模是基于隐马尔可夫模型。韵律预测所依据的语言信息与语音参数之间的关系，是通过用 1.5 小时语音样本来训练这个隐马尔可夫模型进行表达的。在语音合成阶段，韵律模块根据文本分析的结果来预测合成基元(如半音节)的时长，基频和能量等语音参数。然后，语音合成模块根据这些语音参数，从一个大规模语音库中选出最合适的语音波形数据序列，把它们拼接起来作为合成语音输出。采用大规模语音数据库是 XIMERA 系统的一个基本特征。在 XIMERA 中，我们录制了单个女声大约 20 小时的标准汉语语音库。语料设计是基于统计优化多层次语言单元来最大化地覆盖汉语音韵信息，用爬山算法从超大规模汉语语料库中选出约 15000 个句子。其中，新闻类占 66.7%，旅行会话占 33.2%，其它如儿化词等占 0.1%。实验结果表明，汉语文本处理的词切分和词性标记精度分别为 95%和 89%，字音转换正确率为 97%。合成语音达到了清晰自然的程度。

③ コーパス分析のケース・スタディ

—中国語の結果複合動詞及びその日本語・英語対訳コーパスからの考察—

申 亜敏（大東文化大学・非）・望月圭子（東京外国語大学）

本発表では、中国語の結果複合動詞について、《汉语动词—结果补语搭配词典》（1987，北京语言学院出版社）から抽出した 1,866 例の結果複合動詞文への分析のケース・スタディを提示する。

中国語の結果複合動詞を、複合動詞全体の項構造の項の受け継ぎという観点から、以下のように五分類すると、その生起率は以下のような結果となる。

- (1) 結果複合動詞の項の受け継ぎを基準とした分類とその生起数
- I 結果複合動詞の項構造が、V1とV2の両方から受け継がれる場合
- | | | |
|----------|------|-----|
| ① 目的語志向型 | 816例 | 44% |
| ② 主語志向型 | 322例 | 17% |
- II V1とV2のいずれか一方からしか、受け継がれない場合
- | | | |
|--------------------|------|-----|
| ③ 前項述語の項が具現化しない場合 | 73例 | 4% |
| ④ 後項述語の項が具現化しない場合 | 0例 | 0% |
| ⑤ V1がV2の補文の一部である場合 | 655例 | 35% |
- 計 1,866 例

(1)からわかるのは、以下の(2)である。

- (2) a. 結果複合動詞において、意味の中心は、結果事象を表す後項述語であり、結果事象に関わる参加者は、必ず複合動詞の項として、Theme/Experiencer という意味役割を担って具現化する。
- b. 前項述語の項は、後項述語の項と同定を受けない場合、項として具現化されない場合がある。例えば、〈写酸（何かをたくさん）書いて、（手が）痛くなる〉では、誰が何を書くか、という V1 の外項及び内項は、前の文脈には出現するが、複合動詞の項構造としては具現化しないことが可能であるのに対し、後項述語の項が具現化しない例はみつからず、結果複合動詞の主要部が後項述語であることがデータから支持される。
- c. 結果複合動詞が使役起動他動詞用法をもつ場合、複合動詞の主語は、前項述語の Agent という意味役割を引き継ぐのではなく、Causer という新たな意味役割をもつが、それは、項の受け継ぎによるものではなく、語彙概念構造から付与されると説明できる。（例 <騎累，馬に乗って馬を疲れさせた>，<跳煩，踊って，人を苛立たせる>，<哭走，泣いて，人を去らせる>）
- d. 補文関係をもつ結果複合動詞では、後項述語が Event という意味役割をとり、Event の中に、前項述語の項構造全体が埋め込まれる。複合動詞全体も Event という意味役割を後項述語から受け継ぐ。（例<起晚，起きるのが遅い>，<查错，調べ間違い，調べた結果間違っている>）

さらに、《汉语动词—结果补语搭配词典》の例文をもとに、対応する日英語対訳コーパスを作成してみると、例えば、(3)のように、中国語の結果複合動詞が日本語の結果複合動詞及び英語の結果構文と対応する例を観察することができる。

- (3) 他 一脚 把 掉在地上的馒头 踩扁了。

彼は地面に落ちた饅頭を平たく踏み潰した。

He stepped the steamed bun flat with one stomp of his foot.

中国語の結果複合動詞とその日英語対訳コーパスを通し、中国語の結果複合動詞は、日本語・英語との対照を通し、どのような共通点と相違点および類型をもつのかについても考察する。

ワークショップ B 『方言からみなおす文法変化のメカニズム』

司会：C・ラマール（東京大学）

コメンテーター：楊 凱榮（東京大学）

文法変化のメカニズムとして、一般に①再分析、②文法化、③接触による外的要素という三つの基本メカニズムが考えられている。このワークショップでは、主流漢語（共通語の現在の姿と過去の共通語を反映する歴史文献）の事例のみでは見えにくい現象を分析し、方言のデータを用いて漢語全体の文法変化の常用パターンを明らかにする作業に貢献することを目指す。一つ目の発表「粵語構造助詞の変遷」では、再分析をキーワードに文法変化の類型を考える。二つ目の発表で論じられる「処置文の諸相」は、同じ機能を果たすようになった受動者マーカが多様な文法化の道を通ったはずであるという予想を検証する。三つ目の発表では、方向補語と目的語の相互位置の問題を言語干渉の観点から見直すことを試みる。

キーワード：文法の変化、文法化、再分析、借用

① 粵語構造助詞の変遷

竹越 美奈子（愛知東邦大学）

現代広州話の“啲[tɿ⁵⁵]”は一般に「複数量詞」（張洪年 1972:91）、「不定量詞」（李新魁ほか 1995:459）、「collective classifier（集合量詞）」（Matthews & Yip 1994:98）などと言われ、普通話の“些”や“一点儿”に相当するなどと説明されるが、その使用範囲は実に広く、可算名詞に用いて複数を表わす他「水、酒、胡椒、風、空気」等の不可算名詞、「父母、人口」等の集合名詞、「禍、恩、道德」等の抽象名詞にも用いる。このように広範な用法をもつ語はどのように生まれ、現在の形になったのだろうか。

19世紀前半の早期粵語資料には、“你的_your”，“我的_mine”のように構造助詞と見られる例のほか、“呢的_this, these”，“個的_that, those”のような「指示詞+量詞」の例があり、その発音表記は[tik⁵⁵]または[tɿ⁵⁵]である。当時構造助詞と量詞は同形であったことがうかがわれる。そして“個的人 that man”（Morrison 1828），“個的細蚊仔 a boy”（Williams 1842），“個的樹 that tree”（Devan 1858）など、単数で訳されている例があることから、この量詞が現在とちがひ、単数にも用いられていたことがわかる。粵方言の語法では、“我本書（我的書）”のように量詞を定語と中心語の間に用いることができるので、統語構造上、構造助詞と量詞の区別がつかないことが多い。量詞“的”は、「定語+構造助詞“的”+名詞」を、「定語+量詞+名詞」と再分析した結果生じたものである。これに対して現代広州話の構造助詞“嘅[kɛ³³]”は、「定語+汎用量詞“個[kɔ³³]”+名詞」を「定語+構造助詞+名詞」と再分析した結果生じた後、韻母が変化したものと考えられる。

本発表では、構造助詞“的[tik⁵⁵]”から再分析の結果生じた量詞“啲[tɿ⁵⁵]”が、他の量詞がカバーできない「すきまを埋める語」として生き残ってゆく過程を 19 世紀の早期粵語資料から跡付けると共に、一つの言語の中で、構造助詞>量詞と、量詞>構造助詞という逆方向の言語変化がおきた要因について考える。

② 漢語方言における処置標識の文法化パターン試論

遠藤 雅裕（中央大学）

本報告は、漢語方言における処置文の処置標識の文法化についてのアプローチである。「V_d+NP+VP」（「V_d」は“把”などの処置標識）という形式を「狭義の処置文」とした場合、処置標識には以下のヴァリエーションが見られる。

- 1) TAKE 類：“將”“把”“拿”等、「持つ」「取る」という動詞から文法化したもので、北方方言を中心に広く分布する。
- 2) 受益者標識類：受益者標識としても機能するもので南方方言に顕著である。この受益者標識類に

は、授与動詞から文法化した GIVE 類（“給”“撥”等）、および随格標識類（“共”“同”等）などがある。

TAKE 類の文法化については、すでに多くの成果が出されているので、本報告では、受益者標識類の文法化を考察する。まず、GIVE 類処置文は、VO₁VO₂型の二重目的語文と構造上平行し、またその分布地域が VO₁VO₂型二重目的語文の分布地域と重なることから、この二重目的語文が GIVE 類処置文に発展した可能性を指摘できる。また、随格標識類は、例えば閩語に見られる“共”、客家語に見られる“lau”など前置詞としての機能が中心でありまた多義的である。このようなものは、受益者標識から処置標識への文法化が考えられる。

③ 共通語における「V+目的語+方向補語」の再検討

C・ラマルル（東京大学）

共通語では、動作の対象を表す名詞句が動詞と複合方向補語のあいだに置かれる（ex. 扔一个酒瓶下来）という語順は、同じ成分を組み合わせたほかの三つのパターン（把 OV 出去、V 出 O 去、V 出去 O）と比べると頻度が低く、有標である。しかしそれらの語順の地域分布をみると、[V+O+出去] がまったく許容されない北方方言が報告されている一方、それが無標な語順である方言もある（東南部方言）。そこから、共通語という寛容な母体に吸収された可能性が浮かび上がる。この語順は標準語でいくつかの制約があることが指摘されている（命令文に多いなど、陸俊明 2002、張伯江 1991 参照）。しかしなぜその語順が非現実ムードに偏るかについては、議論が続いている。本発表ではテレビドラマのデータを用いて、[V+目的語+複合方向補語]という語順は借用によって共通語に吸収された後、似通った命題内容を表すのに複数の語順が共存する状況が生じて、その余剰的な語順が「機能更新」によってムード的意味を担うようになったという仮説を提示し、検証する。



（関東支部例会担当）

〒305-8571 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学人文社会科学研究所 佐々木勲人
ysasaki@sakura.cc.tsukuba.ac.jp